

政治を変えるチャンス！！

参院選挙が始まりました。安倍首相は選挙直前の党首討論等で、憲法改正をめぐり、早ければ秋の臨時国会から衆参の憲法審査会を再始動させ、具体的な改正項目の議論に入りたいとの考えを表明しています。一方で、市民・野党の「参院選で議論すべきだ」との意見を無視して、今回の参院選では「争点とする必要はない」とも主張しています。憲法問題を争点とせず、参院選後に改憲に進む考えです。

安倍改憲許さず、戦争法廃止！新しい政治をつくるチャンス到来！と、市民と野党の共闘が結束して自公とその補完勢力を少数派に追い込もうと全国各地で大奮闘を展開しています。

安倍首相 「参院選後の衆参憲法審査会の議論を通じて」との考えを表明

日本記者クラブ主催の与野党9党による党首討論会が21日、東京都内で開かれました。安倍晋三首相は憲法改正の国会発議に必要な3分の2の勢力を、参院選後の衆参憲法審査会の議論を通じて形成したいとの考えを表明しました。政権の経済政策アベノミクスや社会保障政策でも論戦が交わされました。（写真はしんぶん赤旗から）

安倍首相 「秋の国会で憲法審査会を再始動させる」と発言

安倍首相は討論会で、憲法改正について「（参院選で）争点にしないとは言っていない」としつつ、「条文をどう変えていくか決めるのは選挙ではなく国民投票だ。大切なことは憲法審査会で逐条的な議論を冷静に行って集約し、国民投票で問うことだ」と語りました。

また、安倍首相は早ければ秋の臨時国会にも衆参憲法審査会を再始動させる構えで、民進党など野党とも話し合う必要性を認めた上で、「憲法審査会でお互い議論しながら、3分の2を構成するよう努力していく」と主張しました。

これに対し、民進党の岡田克也代表は「首相は立憲主義に対する認識が全く間違っているのではないか。権力を縛るのが基本的に憲法の役割だと認識しているのかどうか疑わしい」と語り、安倍政権下で憲法改正の議論を進めることに慎重な考えを示しました。共産党の志位和夫委員長も「安倍政権による憲法改定に反対する」と述べました。



過半数を割りこんだ場合は「責任を伴うのは当然」と安倍首相

参院選の目標議席について、首相は自らが掲げた「与党で改選議席の過半数（61議席）」を割り

込んだ場合、「責任を伴うのは当然のことだ」と述べました。一方、民進党の岡田氏は、与党を61議席以下に追い込めなかった場合について「私の出处進退は私が決める。この選挙にすべての責任を負う」と語りました。

安倍首相 9条改憲を否定せず

「ニュース・エブリー」で

21日放送の日本テレビ系番組「ニュース・エブリー」で与野党党首討論が行われ、憲法改定問題がテーマになりました。この中で安倍晋三首相は、「今の段階でどこをどう変えるかを集約していないので参院選で問いやがらない」と発言。日本共産党の志位和夫委員長が「安倍首相は憲法9条には手をつけないといえるのか」とただしたのに対し、首相は答えず、9条改憲を否定しませんでした。

志位委員長氏は「自民党は改憲草案を示し、9条2項を削除して、国防軍を保持すると書いている。こうなると、集団的自衛権にしても海外派兵にしても無制限にやれるようになることが入っている。9条には手をつけないといえるのか」と安倍首相をたどしました。

これに対し安倍首相は「憲法審査会で議論してほしい」と述べるにとどまり、明確に答えませんでした。

公明党の山口那津男代表は「安倍さんは聞かれるから、自民党の総裁として自民党の立場を話している。ただし、国会の中では何も議論が進んでいない」と弁解しました。

“平和安全法制（戦争法）があれば9条改憲は必要ない”との立場を示した山口氏。志位委員長から「首相も同じ立場か」と問われた安倍首相は、「自民党総裁としては憲法審査会で議論しようと言っている」と述べ、重ねて9条改憲を否定しませんでした。

「ネット党首討論」 安倍改憲を許すのかが大争点と

19日夜に与野党党首による「ネット党首討論」がインターネット動画サイト「ニコニコ動画」などを通じて生放送されました。経済と憲法をテーマに各党首が論戦。憲法をめぐる議論では、安倍改憲を許すのかがどうかが参院選の大争点であることが浮かびあがりました。

首相「次国会から条文を議論」と発言

安倍晋三首相は、安倍首相は討論の冒頭、「この選挙においてもわれわれは憲法改正を目指していくことを選挙公約にちゃんと書いている」と強調しました。そして、参院選の結果をうけ、「どの条文を変えていくか、条文の中身をどう変えていくかの議論を進めていきたい。次の国会から憲法審査会を動かしていきたい」と、参院選後の国会から改憲議論を行うと明言しました。

これに対し共産、民進、社民、生活の野党4党は安倍政権下での改憲議論に危機感を示し、安倍改憲に反対を表明しました。

日本共産党の志位和夫委員長は、憲法9条2項の全面削除や「国防軍」の明記などを盛り込んだ自民党の改憲草案について「憲法が憲法でなくなるもの。憲法によって国家権力を縛るものではなく、憲法によって国民を縛り付けるものへと大変質させるものです」と指摘し、「この自民党改憲草案を許すかどうか、今度の選挙の大争点です」と強調しました。

一方、公明党の山口那津男代表は「憲法改正については、与党で合意をつくり発言するということではない」と責任回避の姿勢を示し、「国会の中で議論が成熟していないので、参院選では争点にならない」と争点隠しに終始しました。また、おおさか維新の会の松井一郎代表は「憲法改正が必要だ」と改憲補完勢力の姿勢を鮮明にしました。

産経新聞「主張」が「参院選と憲法改正 首相が率先して語る時だ」と首相を叱咤!? 争点隠しも改憲促進も許さない!

このような安倍首相の発言に対して、産経新聞も「主張」で自らの立場から「争点隠し」を強く指摘し、安倍首相を叱咤し、国民世論に挑戦しています。安倍首相の争点隠しも産経新聞の改憲音頭取りも願ひ下げです。

日本にとって、どのような憲法改正を急ぐべきか。参院選はそれを論じる絶好の機会である。最大与党を率い、憲法改正を政治課題に掲げてきた安倍晋三首相（自民党総裁）が、自ら改正点を国民に提示するのが筋だろう。

ところが、首相はそこを具体的な争点にはしないという。

秋の臨時国会を念頭に、衆参両院の憲法審査会で改正項目の絞り込みに入る方針は表明した。ならばなおさら、何を改正すべきかの論戦を今、深めるべきだ。

改正を旗印にしてきたこれまでの姿勢は何だったのか。なぜ自ら封印しようとするのか。首相の姿勢をいぶかる支持者は少なくないだろう。

首相は「選挙の結果を受け、どの条文を変えていくか議論を進めていきたい」とも語った。

国政選挙は、国民と「政治」の対話の場である。選挙中には論点を具体的に上げず、選挙後に国会議員だけで絞り込みを行おうというのは分かりにくい。改正の機運も盛り上がるまい。

各地のとくくみ

北海道 「ちゃんと選んで投票いこう」と呼びかける 「高校生デモ部」

平和運動フォーラム空知地域協議会や南空知憲法共同センターなど 10 団体が実行委員会をつくって、11 日、岩見沢市で「安全保障関連法(戦争法)の廃止を求める南空知集会」を開催しました。集会には 250 人が参加しました。

集会では戦争をさせない北海道委員会呼びかけ人の結城洋一郎小樽商科大名誉教授が講演し、「参院選で改憲勢力を少数に追い込もう」と呼びかけました。民進党、共産党、社民党の代表が決意表明しました。

集会後にはデモ行進が行われました。政治に関心のない人にも戦争法や社会の現状を知ってもらおうと南空知地域の高校生が立ち上げた「高校生デモ部」も参加し、ドラムをたたきながら「ちゃんと選んで投票いこう」と声を張り上げました。メンバーの高校 1 年生は「たくさんの人が政治に関心を持って投票に行って、次世代につなげてほしい」と話しました。

山形 「白木の箱に入っていたのは紙切れ」と語り、 2000 万署名行動を激励

戦争法廃止山形県民運動実行委員会は 13 日、山形市内で 2000 万署名行動をしました。峯田博事務局長や民医連の医師らがマイクで「署名の力で戦争法を廃止に追い込もう」と呼びかけました。

今年から選挙権を得たという女性は「参院選は戦争法に反対する人に投票する」と話しました。また、70 代の女性は「私は父の顔をしりません。フィリピンで戦死しました。戦死の知らせで遺骨を叔父らと受取りに行きましたが、白木の箱に入っていたのは紙切れです。何がお国のためだったのかと言いたい。頑張ってください」と激励していきました。